議会だより たかもり

令和3年7月29日 No.148

UD FONT

オオキンケイギク除去作業
ＧＡＩＲＡＩバスターズ

p2 6月定例会
p3 議決結果・臨時議会
p4 新みつば保育園（仮称）
p5 一般質問
p16 委員会から報告します
p17 モニターアンケート・追跡
p18 4年間を振り返って
p20 みんなの声 吉田 藤木 聡さん
牛牧 松村 恭子さん

6月定例会

南小防火設備の法不適合を改修

第2回議会定例会は、6月3日に開会し9日に閉会しました。町から、条例案件2件、契約案件1件、補正予算案件3件、人事案件1件が上程され、全ての議案を可決しました。

条例案件

高森町税条例の一部を改正する条例

個人住民税関係において、非課税限度額等における国外居住親族の取り扱いの見直しと、非課税等の判定に用いる扶養親族の範囲を扶養控除の取り扱いと同様とする措置。また、特定一般用医薬品等購入費を支払った場合の、医療費控除の見直しを行なうものです。

高森町福祉医療費支給に関する条例の一部を改正する条例

柔道整復施術療養費について、県と国保連で調整の結果、これまでの自動給付方式から医科等と同じ現物給付方式となったことにより関係条例を改正するものです。

契約案件

町道1―3号線 上市田1工区

令和3年度防災・安全交付金事業で町道1―3号線上市田1工区に歩道設置工事を行います。契約金額は6253万5千円で、有限会社小池興業と契約するものです。

要望 通行に支障がないように、近隣住民に工事車両の通行計画を説明すること。

改修が指摘された防火シャッター

一般会計補正予算

歳入歳出予算に9795万2千円を追加し、総額を71億4795万2千円としました。

南小学校施設改修事業 5435万4千円

主なものは、防火シャッター・防火扉が、消防法や建築基準法に適合していなかったため工事をします。

質問 以前から指摘されていたのになぜ遅れたのか。

回答 学校の長寿命化計画に基づいて進めているが、国庫補助など有利な財源を充てることができなかったため。

ICT教育推進事業 1196千円

小中学校3校でインターネットの工事をします。

質問 全小中学生にタブレットが貸与されているが、使用規程はどうなっているのか。

回答 3学期を目途に児童・生徒の意見を聞きながら整備する予定。

ヒト・モノ交流促進事業 525万円

ふるさと納税参加農家への支援をします。

質問 交流促進事業にコロナ対策補助金が充てられている。その理由は。

回答 ふるさと納税を多くするためには返礼品の調達額を低く抑え、宣伝などもする必要があるが、コロナ禍で農業経営は苦しい。補助によりふるさと納税の競争力が増し、経営も改善する。

観光振興事業 57万2千円

高森山マップを作製します。

質問 町民への配布は。

回答 町の観光施設、近隣町村の施設に置き、必要に応じて利用してもらう。町民にはホームページで公開する。

農業排特別会計補正予算

昇格による人件費9万5千円を予備費の減額で補正しました。

公共下水道事業補正予算参考

職員増による人件費751万8千円を企業債500万円と一般会計からの補助金227万7千円などで補正しました。

人事案件

固定資産評価審査員会委員の選任

任期満了に伴い、再任に同意しました。

中平正博氏（72）山吹

任期　令和3年8月10日～令和6年8月9日

4月臨時会・6月定例会 議決結果

4月臨時会　（提出議案は全員賛成で可決・承認されました）

	議　案　名	結果	内　容
専決処分	税条例等の一部を改正する条例について	承認	コロナ禍により固定資産税・軽自動車税・個人住民税の特例措置などを延長する
指定管理	信州たかもり温泉（湯ヶ洞・御大の館）の指定管理者の指定について	可決	信州たかもり温泉、両施設の指定管理者を、中央アルプスリゾート株式会社に指定する
補正予算	一般会計補正予算（第１号）	可決	商工費1932万円を増額、予備費で減額補正し、総額70億5千万はそのままとする

6月定例会　（提出議案は全員賛成で可決・同意されました）　内容についてはｐ２参照

	議　案　名	結果
条例改正	税条例の一部を改正する条例について	可決
	福祉医療費支給に関する条例の一部を改正する条例について	可決
契約案件	防災・安全交付金事業　歩道設置工事請負契約の締結について	可決
補正予算	一般会計補正予算（第２号）	可決
	農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）	可決
	公共下水道事業会計補正予算（第１号）	可決
人事案件	固定資産税評価委員会委員の選任について	同意

信州たかもり温泉　指定管理者
中央アルプスリゾート株式会社を可決

4月臨時会

○指定する団体の名称
駒ヶ根市赤穂「中央アルプスリゾート株式会社」
代表取締役　白澤裕司（しろさわゆうじ）

○指定の期間
令和３年５月６日から令和６年３月31日まで

質問　町民の福利厚生としての位置づけが高いが、申請者はどのように捉えているか。

回答　福利厚生施設か収益施設とするかの判断は、申請者はしていない

質問　利用料金５百円では運営が厳しいとのことだが、改定するのか。

回答　どのようにするのか協議はしていく。

質問　利用料金を値上げした場合、３年間５千万円の指定管理料は減額するのか。

回答　まだ議論は出来ていない。

質問　３年間で、運営を成り立たせるには短くないか。

回答　どのようにこの施設を位置づけしていくのか。町民の皆さんに検討いただく期間として、３年を区切りとした。

質問　町民の中でやっていける人が出ればそこに繋げる３年間か。

回答　地域からそのような芽が現れた時、きちんと成り立つ形で継承するモデルケースとしたい。

質問　具体的な改修の話は出ているのか。

回答　一般入浴利用者と、家族風呂など別料金の利用者の入り口を分けたいなどの話はある。

質問　しっかり決意を持って臨んでもらいたい。

回答　申請者は、「南信州全体の振興の為にも」と熱い想いを持たれている。また阿智村を星空の村として世に売り出した確かな実績もあるので手腕に期待したい。

選定委員会会議録、白澤社長の挨拶より抜粋

この指定管理３年間で、独立採算で運営できる状態にまでにし、やっていける施設だと示すことで次の担い手がこの地域内から現れることを目指したい。一方で将来この施設をどうしていきたいのか、それは町民の皆さんで議論し考えていただくべきだと考えている。

新みつば保育園（仮称）候補地変更 臨時の議会全員協議会で報告受ける

建設計画の経緯

R2.09～ R3.02　建設基本検討委員会及び選考委員会開催（議会だよりたかもり№147参照）
R3.03　経営移管先「社会福祉法人萱垣会」、場所「上市田地籍広域農道沿線」に決定
R3.03～04　上市田区会へ、町、萱垣会であいさつ
R3.04.26　地権者説明会
R3.04.28　第1回近隣説明会
（近隣住民・近隣土地所有者）
R3.05.13　第2回近隣説明会
（近隣住民・近隣土地所有者）
町長、この候補地での計画を断念することに言及

現在のみつば保育園

R3.5.19　臨時の議会全員協議会を開催（町長による経過説明・今後の方向性）

事業者萱垣会の提案もあり建設地として上市田広域農道沿線に決定後、用地取得のため地権者との話し合いを進めた結果、概ね了承を得た。その後、2回(4/28.5/13)に亘り、近隣住民の方への報告、並びに建設について説明を実施した。

町としては、候補地については、上市田区と地権者、近隣住民における同意形成が得られていることを前提にして話し合いを進めてきたが、住民の皆様への説明ができていなかったとの指摘があった。閑静な住宅街に保育園ができてしまうこと、交通事情への心配などの意見があり、結果として、理解を得ることがかなわずこの地での建設は妥当でないと判断した。

今後、町が責任をもって地域と連携して用地を選定し、手続きを行う。民営化は予定通り萱垣会で進めていく。町としては、可能な限り令和5年4月に新園舎での開園ができるよう用地選定を進めていきたい。（町長挨拶より一部抜粋・要約）

質問・回答

質問　候補地の選定は、ゼロの状態からのスタートになるのか。以前の候補地からの選定はないのか。
回答　萱垣会の意向もあり、町で新たな候補地を絞り、保護者、地域住民のご意見等を聴きながら決めたい。
質問　建設を急ぐように見られたが、住民の方々にも同じ思いとして受け取られ、今回の事態となったのではないか。これからの予定を、今までの予定の中で進めていくことには無理があるのではないか。
回答　今回の反省をふまえ、地域の皆様に受け入れていただける状況を作ったうえで今後の展開に移っていきたい。令和5年4月1日の新園舎での開園には拘ってはいない。理解をお願いしたい。

議員発 町政へ

一般質問は議員が町の行財政全般にわたり、執行状況や将来に対する考え方の説明を求め、執行機関に疑問点を質し、町政運営をチェックすることが目的です。議員には固有の権能として与えられているものです。

宮下　浩二…… (P6)
・急激に進む少子化への対応は

城子　唯久…… (P7)
・町政運営、町長の自己評価は
・湯ヶ洞あり方検討委員会設立を

小平　一博…… (P8)
・ワクチン接種を問う
・今後の町の道路行政の考え方は

湯沢　健彦…… (P9)
・総合評価入札の客観性について

三浦喜久夫……(P10)
・脱炭素社会に向けて

原　　敏明……(P11)
・マニュアルを守る取り組みは

北沢　幸保……(P12)
・国土強靭化地域計画の推進は

本島　　昭……(P13)
・壬生町政の成果と課題を問う

木下　啓爾……(P14)
・SDGs にどう取り組むか

林　まゆみ……(P15)
・思いやりの共生社会の視点を

一般質問

【議会ホット情報便】のお知らせ

放送日：毎月第3月曜日～日曜日
7:00 9:00 13:00 17:00 19:00
7 月の担当者は北沢幸保議員です。
8月からは議員改選のため未定です。

議会の研修視察について

議会の宿泊を伴う研修視察と議員自主研修（令和２年度より制度化）については、昨年度の予算を「コロナ対策」に流用し､実施していません。「コロナ」以前の３年間にどれだけの研修視察を実施したかをまとめてみました。内容は、過去の議会だよりを参照ください。

議会研修視察

全議員で任期１年目と３年目に実施します。
１年目　友好都市の御前崎市（No.134）
３年目　災害時応援協定都市の徳島県美馬市 (No.142)

委員会先進地研修視察

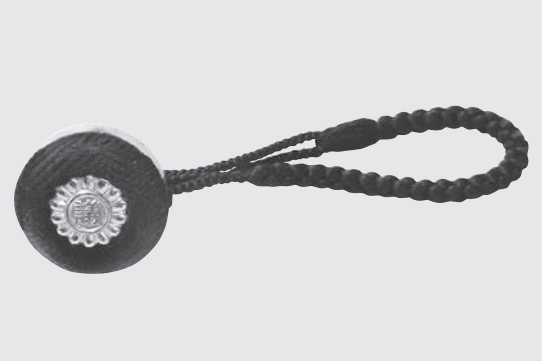
委員会毎任期２年目と４年目に実施します。
２年目　議会運営委員会 糸魚川市･上越市（No.138）
総務民生委員会 長岡市･上越市（No.138）
産業建設委員会 群馬県川場村(No137)
議会だより編集委員会　東京　(No137)

臨時研修視察

全議員　広島県三次市（No.136）

以上延べ７回の研修視察を行いました。議員は研修視察により知見を深め、議会提案、一般質問、委員会での議論などを通じ、より効果的な事業が実施されるよう努めています。

議会 Photo あらかると



●議員記章 (バッジ)

議員記章は、国会議員から各地方自治体の議員までそれぞれ違ったデザインになっています。

高森町議会のものは、金属製台座の周囲に紺色のモール、中央に金色の金属製 14 弁菊花模様と「議」の文字が入ります。

定例会及び臨時議会には、上着への着用が義務づけられ、議会全員協議会、議会運営委員会及び２つの常任委員会での着用が慣例となっています。なお、議員退任後の返還義務はありません。

急激に進む少子化への対応は

町長　ワクチン接種を全庁挙げて取り組む

宮下浩二（みやした こうじ）

▽**質問**

婚活事業は、信用と実績がある民間企業に任せてもいいのではないか。

健康福祉課長

コロナ禍で出会いの場づくりは今まで以上に必要。しかし「愛ねっと北部」や各町村で、もっと積極的に取り組む。

▽**質問**

一番ニーズが多い、紙おむつの一部補助を考える時ではないか。

教育委員会事務局長

町全体の子育て施策の中で、多くの保護者の皆さんの声を聴きながら、取捨選択が必要となる。

▽**質問**

ワクチン接種に電話を利用するとした、6割にのぼる高齢者の皆さんに対するデジタル化対応は。

総務課長

デジタル化への対応が困難な方に向け、サポート態勢や各種教育の場づくりも、並行して進める必要がある。また取り残さない手段を用意していくことも必要。

▽**質問**

現在の社会状況に即した持続可能な自治組織の在り方、加入等の取り組みについて、早急な検討が必要ではないか。

町長

現代に即した負担感を増やさない支援や協働のあり方については、区長会を中心に引続き話し合いを進めたい。

▽**質問**

コロナ禍において、リニア時代に向けて町の取り組みがぼやけている。町としての具体的な取り組みがあるのか。

町長

かわまちづくり事業、産業用地の整備、サテライトオフィスの誘致等、町が主導する事業も重要かと思うが、リニア時代に向け郷土愛にあふれる地域人材の育成等に、町として主体的に応援していきたい。

▽**質問**

持続可能な町づくりには、地域経済の発展を抜きには語られない。多種多様な課題を抱える町内事業所をどのように発展、継続していくのか。

町長

地域人材が力を発揮できる環境づくりが求められている。特にプロジェクトチャレンジについては、これらに貢献している。同様に、新たな発想を基にチャレンジしようという皆さんを応援することも、その地域経済の発展には必要。アントレプレナーによる創業支援は一端を担っている。

▽**質問**

高森町商工会が実施する、プロジェクトチャレンジへの支援拡大の考えは。

産業課長

その参加される皆様のご要望の状況、その規模などにより、必要な支援は適切に図っていきたい。

持続可能な町づくりに必要な産業育成

一般質問

町政運営、町長の自己評価は

町長　**概ね初期の目的は達成しつつある**

城子唯久（しろこ ただひさ）

▽質問

町長就任以来どの様な思いで町政運営にあたり、どのように自己評価をしているか伺う。

町長

町民との対話を行い、そのご意見をスピード感を持った対応で町政運営を行ってきた。

町民の皆さん、議会、役場職員の協力により、概ね初期の目的は達成しつつあると感じている。

▽質問

今後の町政運営について来年1月の町長選以降を含めて、どのような姿勢で望むのか伺う。

町長

リニア新時代を控え南信地域の課題解決に取り組むと共に、新型コロナ終息とそれに伴う経済再生に取り組む。

町政を今後とも続けるのかについては、今は明言を控えさせていただく。

▽質問

町長就任時掲げられた選挙公約は十分に対応がなされたのか伺う。

町長

リニア開通を見据え、地域の人材育成、住民自治、福祉から行財政改革まで、政策、施策に公約を反映させてきた。ある程度きちんとした対応が出来たと判断している。

▽質問

町外からの移住定住施策推進が町の活性化につながると思うか伺う。

町長

定住政策を進めるため環境政策、子育て、福祉推進などハード、ソフト両面で努力してまいりたい。

湯ヶ洞あり方検討委員会設立を

産業課長　**あり方検討委員会を含め今後検討**

▽質問

湯ヶ洞、御大の館指定管理返上の原因は振興公社の放漫経営ではないと思うが、町の見解を伺う。

産業課長

コロナ蔓延による集客数の減少と、それに伴う資金不足を補うため、金融機関からの借り入れが出来ない振興公社の体制が大きな原因と思う。

振興公社理事会としては、経営改善に向け最大限の尽力をいただいたと思う。

▽質問

高森温泉湯ヶ洞を発展させていくため町民の皆さん、議会、町理事者を含めたあり方検討委員会のようなものを創設するべきと思うか伺う。

早期の完全再開が待たれる湯ヶ洞、御大の館

産業課長

ご指摘のような組織の創設について検討してまいりたい。

▽質問

広く町民の皆さんからの出資を募り、運営管理会社を設立し、湯ヶ洞を発展させていければと思うが町の見解を伺う。

町長

今後創設されるであろう検討委員会などで検討していく。

一般質問

小平 一博（こだいら かずひろ）

ワクチン接種を問う

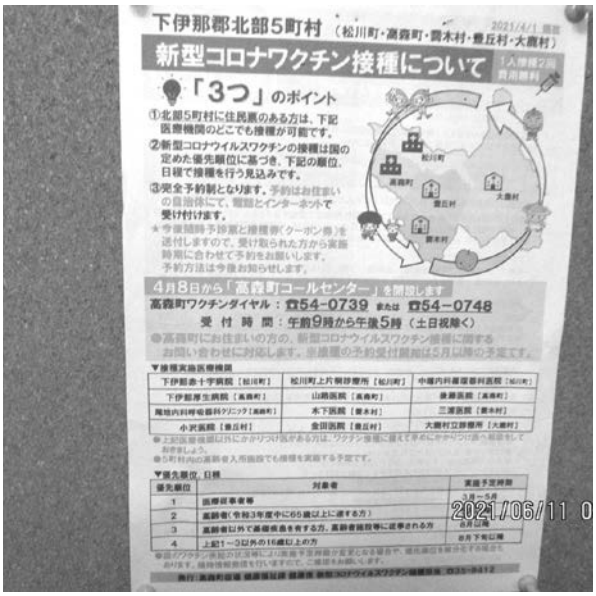
健康福祉課長　７月には１回目の接種を終える

▽**質問**

今後のワクチン接種の見通しは。

健康福祉課長

下伊那北部５町村では、希望する高齢者は計画の８割より増えると見ているが、７月中には希望するすべての高齢者の１回目の接種が行える見込み。



期待のワクチン接種

▽**質問**

コロナ禍による町の財政状況は。

総務課長

現状では、地方交付税他、いわゆる地方一般財源、またコロナ対策の臨時交付金などにより、町政運営とコロナ対策を回すことができている状況と考える。

今後の町の道路行政の考え方は

町長　道路網の役割を広域的に検討する

▽**質問**

飯田下伊那地域は今後大きく発展すると期待される。町の道路行政は。

町長

町としては、今後のまちづくりを考えた上で、道路網の役割など検討を広域的に進めていく。

町内外と、リニア長野県駅を結ぶ幹線道路として、国道153号線・南信州フルーツラインの2路線を横軸に、八日市場線、県道上市田停線、それから湯ヶ洞街道から万才線に抜ける橋梁等を縦軸ととらえている。

▽**質問**

県道飯島飯田線上片桐バイパスの高森方面への延長について、町の考え方は。

町長

片桐松川を橋梁で渡り、松川インター大鹿線でその先線を田沢川岡の田橋の付近に繋いでくると言った件について、県にもその気持ちは伝えてあるが、将来的にはフルーツラインを県道バイパスとして高規格道路にして欲しいという話もしている。

竜神大橋工事始まる

松川町の様子も伺いながら、必要であれば県道飯島飯田線のバイパス部分として、そちらの期成同盟会に全線改良とバイパス化について要望していく。

総合評価入札の客観性について

副町長　研究しわかり易い形にしていきたい

湯沢健彦（ゆざわたけひこ）

▽**質問**

4月の入札で総合評価方式指名競争入札（以下総合評価入札）を採用した理由について。

副町長

今回の入札は人件費が大半なため、賃金・労働条件・運営体制等を勘案して民間業者の創意工夫や技術力による成果を期待したことによる。

▽**質問**

指名競争入札と比べて優位性はどんな点か。

副町長

価格のみならず技術力などのいわゆる品質が総合的に優れた内容の契約となると考えている。

▽**質問**

指名競争入札であれば最低価格により客観性はあるが、総合評価方式による評価の客観性は。

副町長

評価表により、評価を項目ごとに採点基準を点数化して、複数の評価決果を集約・統計することにより客観化している。

▽**質問**

評価表では絶対的な客観化には限界がある。さらに別の対策が必要ではないか。

副町長

客観性については今後も研究し、わかりやすい形にしていきたい。

▽**質問**

総合評価入札における入札価格と、評価基準による評価との関連性・整合性についてはどう見るのか。

副町長

評価区分として、社会的評価と技術的評価を設け、それぞれ3区分において評価をして点数化し、入札価格で除したものを評価値として評価することになる。

これにより、入札価格のみならず評価点も設定して総合的に評価することにより整合性は確保されていると考えている。

▽**質問**

評価する上での客観性からすると、第3者の評価委員等も必要なのではと考えるが、この点についてはどうなっているのか。

副町長

今回は副町長、会計管理者他課長4名で対応した。今後は有識者の参画も含めて検討していきたいと考えている。

要望

今後入札案件によっては気候変動による環境問題についての対応力等も評価の対象になってくると考えられる。

入札方式多様化に向けて

他方、ダンピングによる技術力の低下、利潤確保のためのリスク回避等について対応ができることは総合評価入札の優位性でもある。また、各種の評価は入札者の信頼性にもつながり、ひいては町民の利益に資するものと考える。

今後、公平、明確性のもと諸課題を研究され総合評価方式のさらなる採用に期待する。

一般質問

脱炭素社会に向けて

三浦（みうら）喜久夫（きくお）

環境水道課長　省エネ住宅の普及は極めて重要

▽質問

生ごみコンポストは、家庭などでも取り組める生ごみ処理方法である。講習会等を開いて普及させ、環境意識を高めることができればと思うが町の考えは。

環境水道課長

生ごみ減量化に向け、生ごみ処理機やコンポスター、ぼかし容器の購入補助により、設置推進を図っている。

▽質問

北部や広域連合で、集中的に処理するコンポストセンターをつくり、稲葉クリーンセンターへの生ごみ持込みをなくす考えについて、町長はどう思うか。

町長

広域での廃棄物処理のあり方について、総合的な議論が進むよう、働きかけをしていく。

▽質問

農地に有機質を投入して土中の炭素を増やし、CO_2を吸着させることで、大気中のCO_2を減らせる。有機農業と脱炭素化を結びつけた、講演会や勉強会などを開催してはどうか。

産業課長

国内の農地全体で考えると、約200万トンのCO_2の吸着能力があると言われている。有機農業はまさにその方針に沿った取り組み。生産団体と協力し勉強会の機会を検討していく。

▽質問

竹林を伐採した後、里山に再生するには、地域の人の力が必要と思う。区民の皆さんの手を借りる作業体系は出来ないか。

産業課長

県の森林税による支援の担い手として、里山整備利用推進協議会といった組織を地域で立ち上げ、保全活動をする取り組みも始まっている。区や自治会に向けて、情報を伝えながら立ち上げを協議したい。

▽質問

自分の家が省エネ住宅なのか知ることも脱炭素化に向けた取り組みと思う。省エネ診断を受けやすくし、環境配慮ポイントなどをつけて、減税などの特典が受けられるような制度はできないか。また、長野県には環境配慮型住宅助成金の制度もあるが。

環境水道課長

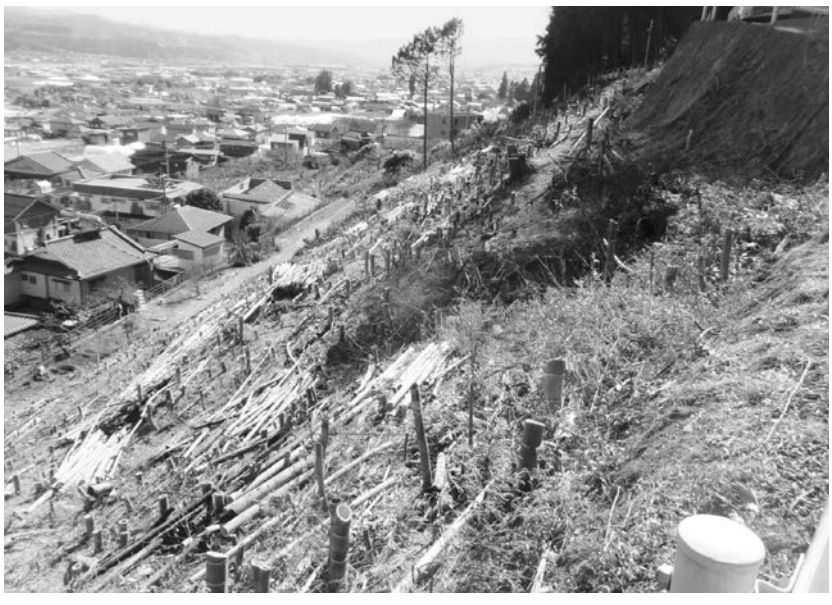
町内へ省エネ住宅を普及させていく取り組みは極めて重要。国、県が進める施策と連携し省エネサポート制度、環境配慮型住宅助成金なども情報提供していく。

▽質問

公民館報「たかもり」で、100回ほど温暖化防止の提案が記されている。復活して呼びかけを。

環境水道課長

10年以上も前から地球温暖化防止に向け、情報発信や取り組みをされて、敬意を表したい。大切な情報がたくさん掲載されているので、今後の町の取組に参考にさせていただきたい。



伐採後の植林・育林は地域の人の力で。（下市田羽根坂）

一般質問

マニュアルを守る取り組みは

教育長　見直しをすることで、確認する

原（はら）　敏明（としあき）

▽質問

保育事故調査報告書では、「保育の多くの部分を負っている非正規職員が、職員会議に出なくてもよいとされた、保育に必要なことがきちんと共有されていなかったことも、事故の遠因と」と指摘されているが、これは当該保育園特有のものか。どうしてこのようになったのか、どう対応されてきたのか。

教育長

保育園は、職員が一斉に集まることが難しい。当時、各保育園では、担任が集まる職員会とは別に、子どもたちが午睡中に副担任の職員会を実施していた。そして用紙によって職員会、園長会の内容が伝わっていた。しかし、その職員会の頻度・内容は各園でさまざまで、中身については、しっかりと把握できなかった。当該園と同様のことがあったかもしれない。現在は、副担任の職員会のやり方の徹底をし、職員会で全職員が共通理解の上で保育を実施している。

▽質問

平成28年、国から出された教育保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインについて当時、どうして町や町内の各保育園が具体的な対応しなかったのか。また、できていれば事故は防げたと思うのか。

教育長

平成24年から保育専門指導員を配置し、保育指針に基づいた保育の実戦、安全管理の徹底など実施してきたが、当時はそういった体制にはなく、保育園全体として、安全に関する研修を実施できていなかった。ガイドラインに基づいて、従来あった保育安全管理マニュアルの見直しも実施しなかった。

全体の危機管理、安全への配慮などが不足していた。総園長として、そのような対応、判断が欠けていたと思います。

事故が防げたか、ということは明言できません。

▽質問

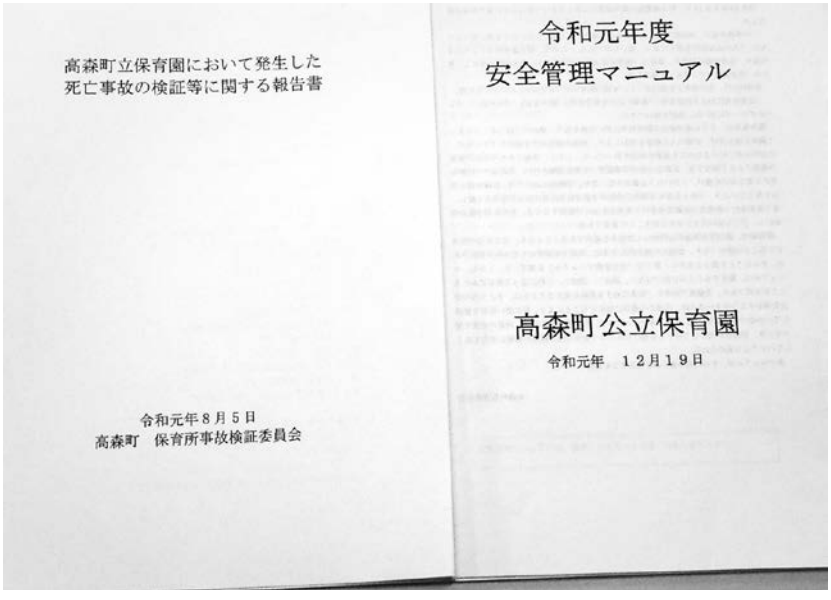
報告書での、保育安全管理のマニュアルが遵守されていなかったとの指摘ついて、何が足りなかったのか。現在のマニュアルを守るための取り組みは。

教育長

年度初めやプール開始前には読み合わせをしてきたが、日常的な活用の準備・指導と見直しがされなかった

マニュアルの見直しをすることで、自らの保育がマニュアルに沿って行われているかを確認することになり、安心、安全な保育について、意識がより高まる。

今後は、自分たちのマニュアルに不足しているのは何かということを出し合いながら定期的に見直しを行い、さらに安心、安全な保育ができるように努める。



事故検証の報告書と作成された安全マニュアル

一般質問

国土強靭化地域計画の推進は

北沢幸保（きたざわさちほ）

町長　個別施設計画により計画的に実施

▽**質問**

4月に策定された高森町国土強靭化計画に対して、町長は、どのようにリーダーシップを発揮して推進していく決意か。

町長

道路・橋梁・水路・公共施設の整備に対し国庫補助や起債事業による財源を得やすくなった。とはいえ、一般財源分も有することから、個別の施設計画等により計画的に実施していきたい。

▽**質問**

強靭化計画を推進する体制は。

総務課長

専用の推進組織を特段設けることは考えていない。

▽**質問**

国は、要支援者の避難を手助けする人や、避難先を定めた「要支援者個別計画」の作成を全国の自治体に求めている。町の個別計画はどうなっているのか。

総務課長

地域の共助に委ねることが困難で、介護・福祉・医療機関が中心とならざるを得ない要支援者の個別計画策定を進めたい。その後、必要度の高い方から個別計画を策定していく。

▽**質問**

物資輸送ルートの確保に向け、縦軸・横軸の幹線道路のネットワークの整備を必要とする道路はどこなのか。

建設課長

横軸は、城岸橋から役場入口の間・フルーツラインの全面舗装改修。縦軸は、湯ケ洞街道でエスバードへの架橋を含めた道路整備・上市田1―3号線の歩道設置・1―6号線の八日市場線を考えている。

▽**質問**

福祉避難所をハザードマップに明記すべきではないか。

総務課長

福祉避難所についてはハザードマップに明記したい。

▽**質問**

下市田保育園は地滑り区域2箇所と土石流区域に囲まれている。また、活断層の近くでもあり大変危険な場所のため、改築ではなく、安全な場所に移転すべきではないか。

総務課長

指摘のような場所であることは認識しつつも、当面は移転改築等の必要性や予定は考えていない。対応としては、保育園の防災マニュアルや訓練・町の支援を確立する。

▽**質問**

中学校の南の唐沢洞と小学校の東の羽根坂は竹林を伐採した。どちらも町有地であり、崩壊のレッドゾーンと地滑りが重複した極めて危険な場所と指定されている。急傾斜地の防災専門家に相談して急いで対策を。

総務課長

羽根坂は安定的に広葉樹が植えられるようになるまで維持管理に努める。中学校南の山腹は落ち着いてきたので、数年の内には植樹整備をする。その際、有識者に相談し、植栽の樹種や植栽の時期等を定めていきたい。

あらわになった羽根坂の36災害崩落地

壬生町政の成果と課題を問う

町長　成果は町が元気になったと感じる事

本島　昭（もとじま　あきら）

▽質問

人口減少時代の到来、リニアや三遠南信道の開通を見据え、大きく変貌が予想される南信州地域、そして「コロナ禍」での対応等大変な町政を迎えている。振り返り成果と課題、今後への思いを問う。

町長

「公約の第7次まちづくりプラン」の政策過程でも町民の皆様と共有でき、事業化の措置ができた。又広報により高森町が元気になったとの声が一番の成果と感じる。その一方で課題は、人材育成を地方創生の柱としてまちづくりの担い手不足が顕著になっている。南信州地域全体が変革を迎える中、町政も非常に難しい時期になると感じている。次の町政運営についての判断については、何らかの形で貢献する姿は、つくっていきたいと思う。

▽質問

信州たかもり温泉の指定管理者が「中央アルプスリゾート」に決定した。全面再開への道筋は。

産業課長

これから感染症の対処状況を鑑みながら全面再開を目指し協議を進めていく。新しい指定管理者の下で、豊かな経験と発想で経営上の改革が進むと期待している。

町も協力していきたい。

▽質問

町と議会が「ゼロカーボンシティ宣言」を行った。実行性ある実施計画は。

環境水道課長

今年度、町民や事業所との意見を反映させた計画を策定、委員会を編成して進めていく。

▽質問

民営化による2つの新保育園建設の課題は。

教育委員会事務局長

・吉田地区へ建設中の「認定こども園ぱどま」は、来年度の開園に向けた説明会、園児や保護者等の交流会を計画している。また、保育士の確保も積極的に進めていく。

・新みつば保育園の建設は、上市田の広域農道沿いの建設予定を断念し、現在適地の選定を進めている。地域の皆様の理解をいただき、地域の中で育ち親しまれる保育園となるよう進めていく。

南信州の夜明けとなるか　－三遠南信道（天龍峡大橋）－

統合される吉田保育園　－跡地利用は？－

一般質問

SDGsにどう取り組むか

木下啓爾（きのした けいじ）

町長　学習機会をつくり周知・徹底を図る

▽質問

SDGsと深くかかわる高森町の「第7次振興総合計画」。それを推進する100名を超える役場職員のSDGsに関わる基礎知識は十分か。

総務課長

自分の課の業務に関してのSDGsはある程度理解しているが、細部までは理解できていない。

▽質問

2021年のある大手企業調査では、「SDGsという言葉の認知率」は54・2%。驚くべきことに10代の認知度は75・9%であった。町では、SDGsに対する町民の認知度や関心度をどのようにとらえているのか。

総務課長

あくまで推測だが、町民の皆様は「耳にする・新聞で目にする」とか、「勤めの関係で知っている」程度と認識している。

▽質問

今後の町政とSDGsのかかわりについて、町民への周知をどのように図っていくのか。

総務課長

先ず、まちづくりプランを共有して頂くための周知が必要。次に、SDGsが日々の活動にどう繋がるのかをご理解いただくための周知を考えている。

▽質問

SDGsをまちづくりの前提に据えた地方創生を進めるために、今以上に町民や企業・事業所の理解と協力を頂くことが必要ではないか。

産業課長

SDGsは、企業の持つ技術や知恵、地域の皆様の持つ体験や経験などが生かされる機会でもある。連携は不可欠であると考えている。

▽質問

役場内で「SDGs普及プロジェクトチーム」を設置してはどうか。

総務課長

まちづくりプラン策定の委員の皆さんと、適切な体制とかステップとかを検討していきたい。

▽質問

町全体のSDGsへの取り組みを加速するために「職員研修の開催」「広報やホームページでの町民向けSDGsの発信」「町民向けのSDGs学習会」などを考えてはどうか?

総務課長

第7次の初めての実績評価が始まる。その中でSDGsの普及等を明らかにする。また。職員研修も実施したい。町民に向けては「まちづくりとSDGs」の情報発信や町民との対話の機会を作っていきたい。

▽質問

SDGsにかかわる町のテーマを決め、その取り組みを通して町民にSDGsを理解していただくことはどうか。

町長

職員にも、町民の皆様にも学習の機会を作って、きちんとした周知・徹底を図っていく。

町のテーマについては、行政から押し付けるのではなく、町民の皆様から出てくるような仕組みづくりを考えて、積極的に推進していく。

職員にも“SDGs研修”を

一般質問

思いやりの共生社会の視点を

町長　意見を言いやすい環境づくりに努力

林（はやし）　まゆみ

▽質問

誰もが住みやすく、住み続けたくなる町にするために、多様な人たちが共に思いやりをもって暮らしていく共生社会の視点が大切だ。町の見解は。

町長

SDGsや教育現場のESD（注）も含めて非常に大切な取り組みだ。どなたもが自己実現を目指すというのを一つの目標と掲げている。思いを伝えていただき、その方にあったしくみや対応をしていかなければならない。まずは言いやすい環境を整えるなど、努力してまいりたい。

▽質問

新しい生活様式における熱中症予防に関して、園児、児童、生徒への指導は。マスクの弊害も指摘されている。マスク姿で登下校する姿をよく見かけるが、子どもの判断に任せるだけではいかがかと思うが。

教育委員会事務局長

園児の3歳以上児はマスクを着用し、戸外遊び・園外保育の際はマスクを外している。3歳児未満は鼻汁を適時すする、拭う習慣をつけるなどが大切なので、マスクはしない。小中学校では原則的に着用しているが、体育館や外の授業では、体の距離を保ちながらマスクを外す場合もある。中学校では生徒が自分で考えて動けるよう指導している。共通してエアコン、空気清浄機の使用や、環境管理温湿度計を設置し、熱中症の警戒レベルを常に確認している。

▽質問

中学校では昨夏、ジャージでの登下校をしていたそうだが、今年は。熱中症予防と感染症対策の柔軟な対応が求められる。課題など伺う。

教育委員会事務局長

状況に応じて対応していく。無理をしない指導をしている。必須科目の柔道が現在行えていない。

▽質問

ぜんそくや花粉症、皮膚が過敏でマスクができないなどの子どもへの配慮は。

教育委員会事務局長

現状は該当がないが、個別対応をしていきたい。マスクを着用できない理由を伝え、お互いに嫌な思いをしない配慮をしていきたい。

▽質問

わけありマスクプロジェクトがあるが、お互いに思いやりのある社会にしていくことが必要だ。

総務課長

一部の自治体でも意思表示カードなどの普及に努めている。注目しつつ必要とあらば適切に対応したい。

環境管理温湿度計（下市田保育園にて）

（注）ESD＝持続可能な開発のための教育

〔お詫びと訂正〕

議会だより№147号において

p10、表題の「健康福祉課帳」を「健康福祉課長」に、上から3段目の「下伊那地方事務所」を「下伊那福祉事務所」に訂正し、お詫び申し上げます。

一般質問

委員会から報告します

町民懇談会の報告
区長会・議会運営委員会
地域課題二つのテーマで

3月24日議会運営委員会が、区長会と町民懇談会を開催しました。

町内7区のうち6区長が二年の任期により三月末で交代します。今まで経験した地域課題を、今後の行政に役立てるように議会側から会議の開催をお願いしました。今回は、3点に絞り各区長から課題をお聴きしました。

その時に出された、意見・要望を報告します。

1 自治組織

・地域自治のあり方を検討すべきだ。下市田では、常会を脱会しても月々区費をいただいている。

・自治会加入者は、道づくりや河川清掃に出労しているが、未加入者は出ないので、不公平感がある。

・税金を町民から集めて再配分したらどうか？

・町民税1％の活動（町民主体のまちづくり活動支援事業）は使いづらい。

2 消防団

・活動運営資金として、一戸いくらという方法を検討して欲しい。

・分団費用は同じにして欲しい。

3 議員なり手不足

・なり手不足ではなく、なって欲しい人が出てくれない。理由は、報酬が安いからだと思う。

・本気でやってもらうなら報酬を上げること。かといって定数を少なくするのは良くない。払うものは払い、やってもらうことはやってもらう。

・議員が細かいところに関われないのも、やろうという気になれないところかも。広域に関することは、議員の中でも声を大にして言って欲しい。

・出来るだけ大勢の人に出てもらいたい。

・区で推薦するのはなかなか出来ない。働きかけは難しい。

今回の懇談会は、議会側がお聴きすることが多かったと思います、懇談会に出た必要な事項は、関係する部署に伝え行政で取り上げるよう要望していきます。

（議会運営委員長　小平　一博　記）

「自らの編集」を振り返る

5月31日　日本大学の学生さんへの講義

早稲田大学マニフェスト研究所の中村健先生から、日本大学公共政策学科の学生さんに対しての「議会の広報について」の講義依頼がありました。議会では議長の指示により、以下の分担・内容で講義を行いました。

(1)中原議会事務局長
・高森町の紹介
・議会の役割としくみ
・町議会と町長の関係
・議会の権限

(2)小平議会運営委員長
・議会の構成
・議会の活動内容
・議会の4年間の取組

(3)木下編集委員
・議会広報誌の役割
・モニター制度
・議会広報誌の課題

編集委員会では、全員で発表内容やプレゼンテーションについての検討を重ねました。

当日は、高森町と大学を結んでのリモート会議でした。編集委員会では学生さんたちに、「議会・議員はなにをやってるの？」に応える議会広報誌づくりを強調してお話しました。

学生さんからは、
○議会だより編集で重視していることは？
○広報としてのHPをどう考えているか？
などいくつかの質問がありました。

この講義をお受けし、今までの自分たちの編集作業を振り返る事だけでなく、編集委員一同が議会の在り方を再考する機会にもなりました。

（木下　記）

Zoomを使ったリモート会議

№147に寄せられたモニターさんの 声・声・声

本誌に関する『声』はもちろんのこと、行政・町政に対する『声』も多数寄せられています。モニター各位の関心事が、多方面に亘っていることを考えると、「議会だより」がその橋渡しの役を担っていると思います。

『目安箱』としての役割も！

（湯沢　記）

○熱中小学校の運営資金ですが、国からの交付金に替わりふるさと納税や企業からの支援金だけで維持出来るのか？
○新型コロナウイルス感染症対策に係わる予算で、地域内移動活性化事業が飲食後のタクシー利用の割引ということで、コロナ対策と相反するもののように感じたのですが…。
○GIGA スクールは今までの教育の在り方を大きく変えていきます。学校の先生の負担も大きくなるし、不安を持っている保護者もいると思います。インターネット環境の問題やセキュリティーも含め、スムーズに導入がされることを期待しています。
○温泉の休館は非常にさみしい。自身もちょくちょく利用していたので大変だとは思いますが１日も早い営業の再開を祈っています。
○組合の加入率が低下している中、これからの自治のあり方についてぜひ取り上げて下さい。
○新型コロナウイルス感染症対策、まずは町内から感染者を出さぬこと。その為にはワクチン接種が課題となる。希望する対象者にトラブルなく対応できることが第一。予算の有効活用を期待します。
○全頁の統一性がない為か、読み手を引き付けるコンテンツになっていない。

モニターアンケート・追跡

追跡!! あれは今どうなってるの？

質問
堂所浄水場は、土砂災害警戒区域の土石流及び地滑り区域に指定されている。市田地区の水道供給の恒久対策をどう行うか。　【令和2年3月議会定例会】

答弁
令和２年度の予算に、調査・研究費を計上させていただいた。その結果を踏まえて対応について検討したい。

⇩

その後
令和２年度「検討業務」を実施した。その結果、大島川の氾濫については、浄水場の配置位置が河床から８m高いため、土石流が影響を及ぼす可能性は低いと判断された。また、役人平の地滑りについても、その可能性は低く「対策の必要性は低い」との結果だった。

以上の結果を受けて、対応策を「擁壁の整備」「浄水場移転」「谷止め工の整備と流路工の整備」の３つに絞った。しかし、それぞれ３億円～２０億円余りの予算が必要となるので、今後の経営戦略を立てつつ対応方針を決めていくことになった。　（木下　記）

土石流・地滑り区域に指定されている堂所浄水場

振り返って 迎えて一言～

大島正光

一昨年より新型コロナウイルス感染拡大により、議会も町民の皆様の健康と暮らしを守るため、町長へ提言要望を行いました。

私が提案した「かわまちづくり」事業が国土交通省の認定を受け、また7年後の長野国体でカヌーとビーチバレー会場にも内定し賑わいの場として実現に向け進行中です。

また議長、副議長を務めさせていただき皆様のご支援に感謝いたします。

市川信幸

組織人でなく、親戚も少ない私が苦しい選挙戦を戦い3期目の議員活動に入り4年を過ぎ様としています。その間、産業建設委員長2年、副議長2年をさせてもらいました。

以前より議会改革のかけ声はありましたが、なかなか進みませんでした。しかし今回の議会は積局的に行なわれたと感じています。

宮下浩二

「本当に辞めちゃうんですか。」「もったいない。」多くの方からこのような言葉を頂いた。

4期目になってから、いつも自問自答してきた。

リニア新幹線の開通、ゼロカーボン社会の構築など、これからの町づくり地域づくりは本当に大変だぞ。やはりこれからは若者の新しい感覚、強靭な体力が必要になると。

地域の皆様のこれまでのご支援に感謝致します。

岩口友雄

2期8年、多くの方々のご指導・ご協力により任期を迎えることが出来ました。2期目の4年間を総務民生委員会と議会運営委員会に所属。

前半の2年間は議会運営委員長を、後半の2年間は総務民生委員長を務め多くの事を学ぶことが出来ました。また、後半2年間では南信州広域連合議会の議員も経験。この4年間多くの事を勉強することができ感謝致します。

林まゆみ

女性や弱者などの視点から、アレチウリ対策、防災関連、誰もが使いやすい環境整備、不登校支援の在り方、平和事業などに課題提起をしました。ヒロシマ被爆アオギリ三世を育てる活動も始まり、さらに拡げていきたいと思います。緊張感のある生活の中で、多くの喜びや、温かさに恵まれた8年間でした。支えてくださった皆様に感謝しています。

北沢幸保

新人議員としての4年間でしたが、多くの皆様に支えていただき、町づくりに参画できましたことに感謝申し上げます。

契約事務の一元化・例規審査委員会・36協定の締結・条例施行の手続き・「森の家」の改修構想などについて行政を動かすことができました。

請願の紹介議員になることも多く、平和・福祉消費税など町民の立場で討論に参加してきました。

原　敏明

新人議員として、議会だよりの発行に携わり、モニター制度も始まりとても勉強になりました。

一般質問は、16回共行い保育園の管理や補聴器の助成金の要望などに取り組み、町民の声を届けるように努めてまいりました。安全安心の町づくりには、「保育事故」の教訓を活かすことが求められていると思います。支えていただいた皆様に感謝しています。

4年間を～任期満了を

本島　昭

今期は、産業建設委員に4年所属し、前半の2年は町監査委員として、事業予算や諸交付金等の適正かつ効果的な執行状況の監査を実施し、その間代表監査員の豊かな見識の元、町の将来像づくりに深く係わることができ心より御礼申し上げます。

後半の2年は、未だに収束の道筋が見えないコロナ禍で町民の安心と支援対応に努めました。12年間お世話になりました。

城子唯久

父母、おばあさんが晩年町の福祉関係の皆さんに大変お世話になったことから、町の福祉行政の発展を願い、議員になりました。以来あっという間の8年間でした。

福祉バス、お出かけタクシー、荒廃竹林整備、防災ハザードマップ改定などで一定の成果を上げることが出来たと思っています。

関係の皆様よりのご指導ご支援に感謝します。

小平一博

2期目として、総務民生委員長後半2年は議会運営委員長として行政に関わることができました。しかし、この2年余りはコロナ禍により町の産業も大きな痛手を受け、町の財政も影響を受けました。

人口減少は、当町でも始まり北小学校の児童数が将来大幅に減少することから、山吹を考える会を開き訴えてきました。4年間お世話になりました。

小平芳幸

4年間の議員活動にご支援頂きまして深く感謝申し上げます。私は、政治が最優先すべきは、平和・福祉・医療・教育。特に弱い立場の人達の支援が重要だと考え活動して来ました。しかし自らの努力不足のためか、成果が充分に得られなかったことを反省しています。議員活動で得た知恵や経験を、今後も地域の皆様のため、しっかりと役立てていく覚悟です。

木下啓爾

議会機能は、「住民代表機能、審議・監視機能、施策立案機能」の3つです。このうち、最も大切なのは、「住民代表機能」であると私は考えて4年間を過ごしてきました。

今振り返ると、「町民の代表として十分な発言ができなかった」と思います。発言のために必要な「町民の声を聞く議員活動」ができていなかったためです。町内外に出ての議員活動の不足を反省しています。

湯沢健彦

想像していた議会と現実の議会との差にまずは驚いた、新人議員としての1年目でした。

「習うよりは慣れろ」とはよく言われることですが、慣れることによって得られたものが、はたして町民益に繋げることができたのか、また4年という期間中いか程の相方向性が得られたのか自問自答します。

この機会を与えられたこと、感謝いたします。

三浦喜久夫

「安心して住める町に」。できるだけ多くの事業に参加し、町を知るところから始めました。まちづくりに貢献できたかは疑問です。研修会などで、議会改革の必要性を感じました。変えられないこと、変えていかなければならないこと。議会改革の難しさを感じます。私は半議員半農業。「二兎を追うものは一兎をも得ず」中途半端な議員でした。4年間お世話になりました。

みんなの声

消防団の未来

吉田　藤木（ふじき）　聡（さとし）さん

私が高森町消防団に入団し、早12年の年月が経ちました。

所属は第2分団第2班。当初は自班だけでも20名近くの班員がいて、とても活気があったことを憶えています。

さて、現在はといいますと、私は第2分団副分団長を務めております。役職が付くと消防団を取り巻く環境の変化をひしひしと感じます。特に団員数の減少には歯止めがかからず、消防団として活動が出来なくなってしまうのは、そう遠い未来ではないように感じます。私達に出来る事は何でしょうか？

時代も世代も変わりました。今が正に変革をするときではないでしょうか？先輩方から受け継いだ消防団を次の世代にしっかりと引き継ぎ、しかし、その全てを是とせず未来に繋がる変革をしていけたらと思います。

再開する温泉　魅力あるものに

牧　松村（まつむら）　恭子（きょうこ）さん

2月から休館となっていた地元の温泉御大の館が7月から入浴に限り再開する。

3月末に町公社が運営から撤退し、このまま廃墟となってしまうのではと心配していましたが、新たな指定管理者が決まり再開できることになりました。

家から近いこともあり以前は家族でよく利用し入浴後には食堂で食事をするのが楽しみでした。

また、法事や新年会などの会食に湯ヶ洞を利用することもあり、温泉の休館を寂しく、また不便に思っていました。

今後食堂や湯が洞の営業も予定されている様ですが、新型コロナウイルスの影響もあり厳しい状況下での再スタートです。

新しい運営会社によって誰もがまた行きたいと思える魅力ある温泉になる事を期待します。

議会が変われば②

『議会が変われば町が変わる』議会改革推進特別委員会は、早稲田大学マニフェスト研究所　中村先生の講演を契機に、宮下前議長のもと3年前創設されました。先進議会をみると当町の議会改革はまだまだ。

『議員力から議会力へ』二元代表制のもと、議会がその役割を発揮するために、議員の資質向上はもちろん、議会がひとつになって〝議会力〟をつけることが求められています。「議会と住民の距離を縮める」「慣例に倣う議会からの脱皮」が必要です。

『議会改革はＴＴＰ（テッティテキニパクル）』～先進議会の真似をすること。近年は、ユーチューブを使って情報を開示する議会もある。モニターさんからも、身近でわかりやすく開かれた議会を目指して、ＳＮＳなどを活用した情報開示も必要と提案されています。

『魅力ある開かれた議会』にするために、次期議会も引き続き議会改革を進めていく必要性を感じます。

（三浦　記）

表紙の写真

特定外来生物アレチウリとオオキンケイギクを駆除するGAIRAIバスターズ。18名のボランティアが、水・土曜日の朝7時から1時間作業をしています。

編集後記

私達は4年前、高森町の誕生から満60年の還暦時に議員に選出され、昨年からは人類が経験したことのないコロナ禍の中での議会活動となりました。▼14人の議員は、各々の議員活動について振り返りました。（p18～19）▼議会は、4年間に条例・予算・決算などの議案を議決して、町に新しい歴史を刻んできました。▼良し悪しは、今後町民によって評価されますが、当町の将来像である「なりたいあなたに会えるまち」に向かって、高森町が前進したと感じて頂ければ幸甚です。

（北沢　記）

あなたも議会を傍聴してみませんか？

次回の定例会は

9月です。

場所 役場3階 議場

詳しくは議会事務局へ

☎35-9404

古紙再生紙使用

～議会だよりをお読みになってのご意見・ご感想をお寄せ下さい～

発行／長野県高森町議会　責任者／大島正光　編集／議会だより編集特別委員会
〒399-3193 下伊那郡高森町下市田2183番地1　TEL0265-35-9404　FAX0265-35-8294

UD FONT